

[第44回]

NCGG-R 研究発表会

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

個体老化の機構解明をめざす 基礎老化研究

老化機構研究部
丸山 光生 部長

2019年10月8日(火) 16時00分～
第1研究棟2階大会議室

団塊の世代が後期高齢者の中心となる時期を間近に迎え、わが国は2025年以降には4人に一人が75歳以上になる超高齢化社会が到来する。この傾向は21世紀を迎え、この100年の間にわが国に限らず世界の多くの人々の平均寿命が延び、それに伴う健康寿命の延伸は地球規模での達成すべき課題と期待されている。そのためにも基礎研究としての視点を見失うことなく、老化のメカニズム、プロセスをしっかりと理解し、その成果を礎に加齢とともに増大する高齢者が抱える老年疾患を患うリスクをどのように少なくすることができるか、どうすれば未然に予防できるかといった命題に社会と共に取り組むことが極めて重要だと確信している。私たちは新規老化関連因子の網羅的探索、個体老化における生理的機能の解析を通して、特定の病原体などの異物を認識する免疫系の老化に伴う機能低下に注目し、感染症をはじめとする高齢者を脅かす多くの疾患の罹患率や重篤化、予後とどのように関わっているのか、そのメカニズムを理解することで、免疫機能の維持に関わる方策の開発すなわち、健康長寿社会の実現に向けた研究を目指してきた。近年、私たちは感染、損傷から保護するために必須なプロセスである炎症が加齢とともに慢性化することで組織の機能低下と深い関連を持つメカニズムにも注目している。病原体侵入の第一のバリアと言われる皮膚や腸管粘膜の自然老化のメカニズムの解析も行っているため、それらの研究の一端を紹介する。

座長：磯部 健一 (名古屋女子大)
連絡先：副所長室 (内線5002)